

# “環境に良いモノ”しか作れない仕組みづくり

1998年、横浜ゴムは他社に先駆けて車の燃費向上に貢献するエコタイヤ「DNA」を開発しました。以来12年、環境貢献商品を開発する仕組みをレベルアップし続け、環境性能を高めた新商品を継続的に発売してきました。こうした活動を通じて現在では“環境に良いモノ”しか作れない社内ルールを確立しています。

1996年

## 「DNA」の開発に着手 環境適合設計の審査を開始

製品環境アセスメントチェックシートを使用して17項目に渡る環境適合設計の審査を開始しました。

2000年

## 環境適合設計審査の要領見直し

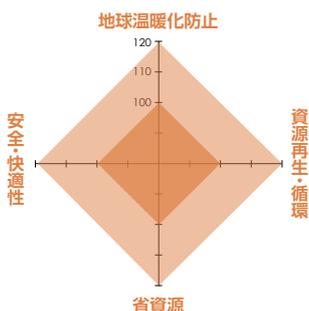
製品開発の要領を見直し、設計審査の中に製品環境アセスメントチェックシートを組み込みました。これにより設計審査が円滑化し、「DNA」シリーズを継続的に発売することができました。

2006年

## 4つの環境機能(環境レーダーチャート)を追加

新商品の環境性能を客観的に評価するため、環境レーダーチャートを追加しました。4つの環境機能を設定し従来品と比較して点数化する方法で、4項目の平均が5%以上うわ回り、かつ全項目で悪化がない商品以外は新商品化できないことをルール化しました。

環境貢献商品を定義する4つの環境機能



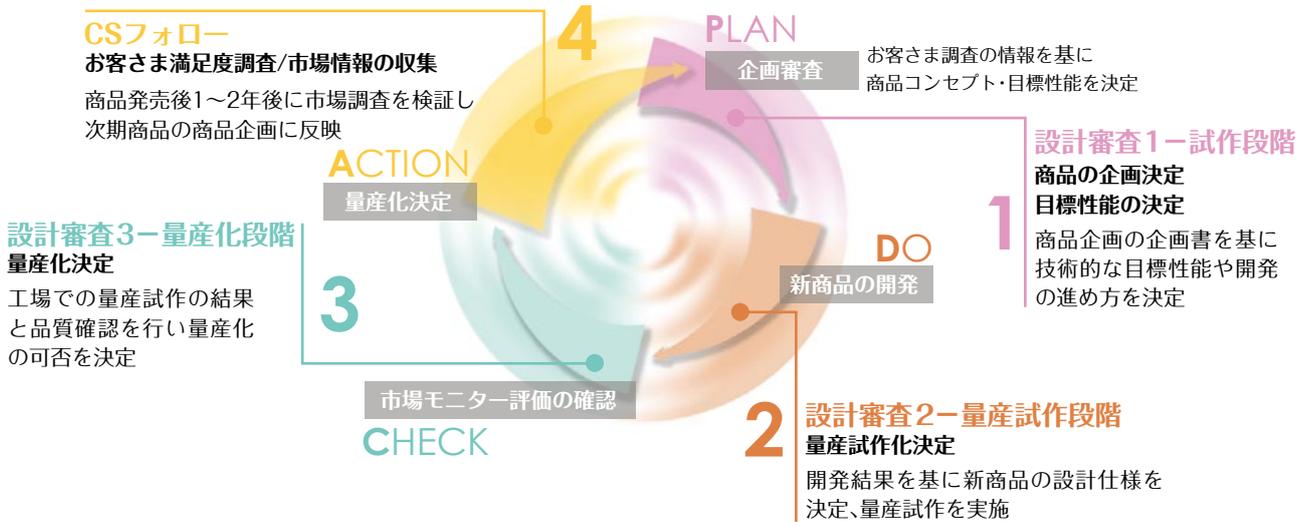
トラック・バス用タイヤ。従来品 (PROFORCE eco TY687) に比べころがり抵抗を18%低減。耐磨耗性、耐偏摩耗性を向上。  
ZEN 702ZE

LCAによる評価

環境貢献商品			
地球温暖化防止に貢献			安全・快適性に貢献
環境機能	地球温暖化防止	資源再生・循環	省資源
環境評価指標	ころがり抵抗 CO <sub>2</sub> 排出量 省エネルギー	リサイクル性 リトレッド性能 天然素材比率 リサイクル材料比率	軽量化 摩耗寿命 リデュース係数 耐偏摩耗寿命 開発期間 (シミュレーション技術)
			安全・快適性
			全天候・制動性能 静粛性能 癒し度 (香り・色合い) 脱環境負荷物質 脱汚染→環境良化 (大気・海洋・水・土) 福祉・介護用品への応用

# 環境性能を継続的に向上するPDCAサイクル

商品企画、試作、量産試作、量産の各段階で厳密な設計審査を実施し、これをPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルで運用することにより環境性能の継続的な向上を図っています。



**dB decibel**  
super E-spec

2007.8発売



乗用車用タイヤ。従来品(DNA dB ES501)に比べ  
ころがり抵抗を20%低減。原材料への非石油系  
資源使用率を80%へ。

**3 ice GUARD**  
TRIPLE iG30

2008.9発売



乗用車用スタッドレスタイヤ。  
高密度「トリプル吸水ゴム」、  
高密度「トリプル(トレッド)  
デザイン」などで冬路面  
走行性能を向上。

**ADVAN dB decibel**

2009.7発売



乗用車用タイヤ。優れた走行性能と共に、  
特に静粛性を高めたラグジュアリーカー向け  
プレミアムタイヤ。

**ADVAN NEOVA**  
ADDB

2009.2発売



乗用車用タイヤ。ドライ・ウェットのグリップ性能、  
コントロール性能、耐摩耗・耐偏摩耗性能など、  
走りに求められるすべてのパフォーマンスを  
高次元でバランス。

**Earth-1**

2008.2発売

乗用車用タイヤ。従来品(DNA ECOS)に比べ  
ころがり抵抗を21%低減。セタンから  
コンパクトカーまで幅広く対応。